KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
商業會社條例
全
一

114
A2783

宮城縣立圖書館藏

商業會社條例

山縣良蔭 譯

第一　伯靈府商社規則（一千八百二十年三月二日）

朕弔烈涅力惟廉粤ニ汝衆庶ニ告ク夫レ本府商社及ヒ相庭會社ノ制度ハ古来ノ國法ニ支吾スルアルノミナラス又商人ノ便益ニ適セザルヲ故ニ之ヲ廢シ更ニ一種新法ヲ創定セントヲ屢々商人頭取ヨリ懇請シ且ツ一千八百十一年九月七日ノ營業律第三十一條ニ於テモ凡ソ特別ノ事故有ルニ於テハ各種ノ營業者ヲ地方警察廳ヨリ指令シ一結社トシ公益ヲ達セシムベキコトノ明文有ルヲ故ニ朕今本地商社及ヒ相庭會社ヨリ進呈セル草案ヲ懇切ニ査閲セシメ以テ之ヲ允裁スルヿ左ノ如シ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第一章　商社設立方

第一條　毛織物及ヒ絹帛商賣共ニ其素質商賣ニ付キ從来本地

ニ存在セル二個ノ商人組合及ヒ本地相庭會社ハ自今之ヲ廢止
ス

第二條　更ニ伯靈府下及ヒ本府警視廳ノ管内ニ於ケル商人及
ヒ商業者（字國法律綱領第二編第八款ニ詳載セル商人權則ヲ箸
冊ノ信任、為換免許、商業扶助者ヲシテ商務ヲ取扱ハシメ及ヒ利
子利益等ニ関スル權利ヲ目今已ニ所有シ及ビ將来之ヲ得ント
欲スル者）ヲ以テ伯靈府商社ト称シ一結社ヲ編成ス
但各種商業社中若シ右ニ記載セル商人權利ノ所有及ヒ施行ヲ
望マサル者ハ必スシモ此會社ニ加入スルヲ要セス而シテ其商業
施行ノ權ハ已ニ營業免狀ヲ受クルニ縁テ之ヲ得ルモノニシテ
此條例ハ決テ在来ノ自由營業定則ヲ変更スルヿナシ
其他從来各自獨立セシ商社及ヒ商人組合ヲ今合併スルトイヘ
モ凡ソ往時ノ事件ニ就テ各會社ト其他ノ人ノ間ニ定メタル權利

義務ハ一モ変更スル所無シ

第三條　成法上商人權ノ所有ハ將来唯タ商社ヘ加入スルヲ以
テノミ之ヲ得而シテ本權ト會社トノ関係ハ全ク密著スルモノニ
シテ凡ソ第二條ニ掲クル權理ヲ以テ商業ヲ營マント欲スル者
ハ必ス先ツ商社ニ加入スルヲ要ス但シ商業者成規ノ營業免狀
ヲ受クベキ定則ハ此入社ニ関シテ変更ヲ受クルヿ無ク却テ之
ヲ一般ノ通法トス
右ノ如ク營業鑑札ヲ所持シテ商業ヲ營ミ来リタル商人此條例
公布後ハ其營業鑑札ヲ以テ第二條ニ掲クル商人權ヲ受ケ得ル
ニ非ス唯タ其商社ニ加入セラルヽヲ以テ初メテ該權ヲ得ルモ
ノトス

第四條　男女ノ別無ク又何等ノ商賈ヲ論セス凡ソ商務ヲ營ミ
或ハ之ヲ營マント欲シ及ヒ在来ノ商業ヲ引受ケ或ハ相續シ及

ヒ新タニ設立スル者ハ商人會社加入自由タリ但シ之ニ加入シ得ベキ者ハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

甲　丁年ニシテ行務ニ堪フル者

乙　伯靈或ハ「レヤルロテンブルグ」府民権ヲ得タル者

丙　曾テ悪名ヲ負セタルヲナキ者

第五條　社員タルノ権ハ全ク本人一身ニ止ル故ニ社員ノ寡婦ニシテ亡夫ノ商業ヲ相續セント欲スル者或ハ其他ノ諸人在来ノ商業ヲ遺嘱或ハ他ノ事由ニ因テ引嗣キシ者共ニ又死亡セル社員ノ遺子尚ホ幼少若リハ他ノ事故ニテ家事ヲ擔当スル支配人等社員ニ加入スルヲ要ス且ツ此諸人前ヘノ商人権ヲ行ハント欲セハ成規ノ入社金ヲ納ムルヲ要ス

但シ年長（下條ニ之ヲ詳ニス）ノ意見ヲ以テ寡婦ノ入社金納付ヲ過当ナリト認定セル時ハ之ヲ免除スルヲヲ得ベシ

第六條　社員ノ籍ヲ退去スルハ太抵新社員加入セシカ或ハ相續者有リシ年ノ末ニノミ之ヲ許スヲトス但シ自今断然諸商業ヲ廃止セント欲スル者ハ此限ニ非ス尤モ此ノ場合ニ於テハ何レノ時月ヲ問ハス其退去ヲ許スベシトイヘモ會社ヨリ拂フベキ義務金ヲ平等ニ分擔シ或ハ會社ノ負債ヲ返済スベキ為メ各員相当ノ出金ヲ為スノ義務ハ一般ノ定規ニ拠テ之ヲ受クベキヲトス

第七條　入社ヲ望ム者ハ書面ヲ以テ之ヲ年長ニ申込ムベシ

第二章　社中ノ公務

第八條　商社ノ公務ハ伯靈府内ニ在ル百般ノ商益ヲ謀ルノミナラス其他商業ニ関スル公場ニシテ其所有権及ビ事務取扱ノモ此會社ニ付属スルカ或ハ官ヨリ該社ニ交付セラレタルモノ又ハ特別ノ財産ハ権利即チ地所、資本金、動産、諸寄附等ニ属ス

該社一同ノ支配ニ帰シタルモノ並ニ各社員ノ會社ニ對スル権理義務ヲ管理スルモノナリ

第九條　則チ本地相庭會所ハ商社ノ支配ニ属シ會所一切ノ義務ヲ擧テ總テ商社ノ司トル所タリ

第十條　商社ハ伯霊府商業裨益ノ為メ補任スヘキ若干人員ヲ撰挙シ以テ官ノ認可ヲ請フ但シ其撰挙ハ一千八百十一年九月七日営業警察法第百十二條及ヒ第百十五條ヲ以テ商人ニ許サレタル定則或ハ將来許与セラルヘキ方法ヲ以テ之ヲ為スヘシ但シ商務省大蔵省及ヒ國債本局ニ於テ補任セラレタル或ハ將来補任セラルヘキ管事者ハ已ニ其管事者タルノ職ヲ以テ會社ノ撰挙及ヒ其権有ル廳署ノ認可ヲ要セスシテ尚ホ各自私人ノ為メニ為換取組及ヒ金券（株券及諸公債証書類）買賣ヲ他ノ仲買人ニ齊シク仲入レシ又同権力ヲ以テ本府ノ相庭場ニ出テ仲買ヲ為シ得ルノ権ヲ有ス但シ然ル時ハ尓他ノ仲買人ニ齊シク商社年長ノ懲戒権下ニ立ツベキヿハ勿論タリ

第三章　社務取扱

第十一條　此布令発ニ一般ノ成法ニ本ツキ本會社ニ属スヘキ一般ノ事務ハ本會社親ラ執行スル能ハス故ニ其事務取扱及ヒ會社共有財産ノ支配ハ社中ヨリ撰挙セル若干人員ヨリ成ル事務局（伯霊府商社年長ノ名号ヲ以テ）ニ全権ヲ付与シ以テ其事ノ行ハシム

第十二條　此事務局ハ社中共通ノ公務ニ就キ同意ノ多数ヲ以テ獨断シ敢テ全社ノ商議或ハ其許諾ヲ要セサルモノナリ

第十三條　此局ハ本條例ニ遵奉シ及ヒ其職務ニ本ツキ孛國法律綱領第巻第十三篇第九十九條乃至第百九條ニ掲クル特権ヲ以テ社中一切事務ヲ決行スヘキ権有リ

第十四條　此局ハ全社ノ目的ヲ達スベキ已ムヲ得サル場合ニ於テハ第五十一條中年長局ヘ詢達セラレタル約付金分賦原則ニ照準シ會社衆員ニ課シテ扶助金ヲ募集スルヿヲ得ベシ但シ過当ノ約金ヲ課セラレタリト信認セル者ハ苦情申立ヲ為スコトヲ得

第十五條　年長ハ商社ニ對シ年々其執行セシ事務ノ始末ヲ縷述スベキ義務有リ

第十六條　此ノ他年長ハ其事ヲ決スルニ臨ミ唯タ官ト自家ノ良心ニ對スル責任有ルノミ

第四章　商社年長ノ補任方

第十七條　商社事務局ハ二十一名ノ男子社員ヨリ成ル但シ其任期ハ三年ニシテ社員ヨリ之ヲ撰挙ス就中其全員三分一ハ年々之ヲ交代セシム其交代ニ方リ未タ三年ノ任期満タザル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム而メ其退去者ハ更ニ復タ撰挙セラルヽヲ得ベシ凡ソ退去員其他死去或ハ他ノ事故有リ欠員ヲ生スル時ハ年々更ニ撰挙シテ之ヲ補填ス但シ其撰挙ハ第一撰挙會定日ニ於テ之ヲ行フベシ

第十八條　撰挙ハ商社全員男子相庭會所ニ會シテ之レヲ執行ス

第一回撰挙ノ呼出ハ目今ノ組合長相庭會所長トノ連名ヲ以テ之ヲ為ストイヘ𪜈尓後ハ會社ノ年長之ヲ為スベシ而メ欠席者ハ其投票ヲ送致シ又ハ其発言権ヲ他人ニ賦与スルヲ得ス唯タ此ノ際ニ在テハ発言多数ノ部ニ筭入セラルベシ

第十九條　會社中各男子ハ撰挙権ヲ有シ更ニ各自商業ノ種類、宗旨、或ハ往時ノ組合等ニ関係有ルヿト無シ

第二十條　婦女社員ハ撰挙及ヒ撰挙ノ権無シ婦女ハ會社ノ公

権則ヲ発言権撰挙権、事務関渉権商議ニ於テ唯タ同社員ニ依拠シ其代理ヲ以テ之ニ関渉シ得ルノミ

第二十一條　年長ハ各年其同僚中ヨリ一名ヲ撰擢シテ其局ヲ主宰トシ又外二名ヲ撰挙シテ其代辨者トス

第五章　年長者其職務取扱規則

第二十二條　年長ハ少リモ其同僚十五名成規ニ従テ集合セル時ハ確然決議ヲ為シ得可シ

第二十三條　成規ノ集合トハ左ノ如キモノヲ云

甲　例規會

イ　毎年撰挙後第一水曜日ニシテ且ツ未タ相庭場ヲ開ケザルヲ内トス則チ其相庭場ハ本年ノ主宰及代辨者ヲ撰挙シ且ツ成規集會ノ定日ヲ議決ス

ロ　右集會ヲ為スベキ一定ノ時限

乙　臨時會

イ　主宰ヨリ廻達アリシ時

ロ　所轄廳ヨリ現在ノ社員一統ニ對スル公達アリシ時

第二十四條　主宰ハ開會ヲ司トリ集會中首長ト為リ陳述ヲ為ス但シ陳述ハ之ヲ他員ニ分代スルヿヲ得ベシ

第二十五條　商議ニ方リ主宰ハ数多陳述ヲ乞フ者ノ内其順序ヲ定メ発言ヲ蒐集スベキ為メ先ツ討論ヲ止メシメ而メ本議ノ決ヲ宣告スベシ

第二十六條　発言ノ数相等シキ時ハ主宰ノ意ニ於テ是認スルモノニ決定ス其他ハ主宰モ各衆員ニ齊シク唯タ一個ノ発言ヲ為スノミニシテ多数ノ決ニ加ハルヿトス

第二十七條　主宰ハ商社年長ノ會議決定ヲシテ國法及ヒ此條規ニ違背セシメサル責ヲ官廳ニ負フモノナリ但シ従事商業ニ

関シ定メラレタル條規若クハ方法ニ對シテ正当ニ意見陳述ヲ為スノ此限ニ非ス若シ會議中非法違例ノ決定ヲ為ス時ハ直ラニ本地ノ市尹ニ告ケ且ツ力ノ及フ丈ケ百方勉メテ之レガ実施ヲ防遏スベシ

第二十八條　集會中ニナセル商議及ビ決定ハ之レヲ登録スベシ

第二十九條　主宰及ビ代辨者ハ議決ノ執行ヲ司トルモノトス

第三十條　主宰及ビ代辨者ハ會議中ノ筆記、証書其他一切ノ調製書類ニ署名スベシ

第三十一條　主宰ハ未著セル書類ヲ受取リ之ヲ披テ其事件ヲ衆員ニ傳ヘ及ビ調製書類ノ送達ヲ司トル

第三十二條　商社ノ年長ハ其調製書ノ確信ヲ表シ及ビ其他注目ヲ要スル為メ同僚協議ノ上年長ノ印ヲ捺シ直チニ之ヲ商務

卿ニ進達スルモノトス

第三十三條　主宰不在ニ方テハ其第一代弟者會議ニ出席スベシ第一代弟者齊シク不在ナル時ハ第二代弟者之ヲ摂行ス但シ第一第二代弟者不在ニシテ已ムヲ得ザル時ハ衆員中其年齢尤モ高キモノ之ガ代理ヲ為スベシ

第三十四條　年長者ハ商社姓名簿ノ登録ヲ司トル但シ社員ノ入籍及ビ除籍ハ年長會議ノ決ヲ以テ特リ主宰若クハ其代弟者ノミ之ヲ決行スベシ而メ其入籍若クハ除籍セラレタル者ハ年長ヨリ捺印有ル証書ヲ受取ルベシ

第三十五條　社員ノ姓名ハ始終能ク識リ得ベカラシムベキ為メ年長者ハ毎ニ左ノ如ク為シ置ヲ要ス

（イ）常ニ社員ノ姓名ヲ相庭場ニ掲示ス若シ社員増減有ル時ハ必ス之ヲ正全備ス

(ロ) 毎年歳首ヲ以テ印刷セル社員姓名表ヲ本地ノ高人ニ配布ス

(ハ) 又其一表ヲ市井市區試判所上等裁判所府廳及ヒ商務省ニ進呈スル事

其他凡ソ商社ノ目的ヲ達スベキ為メニハ何等ノ方法ヲ施用スルトモ揔テ年長ノ意見ニアリ

第三十六條　年長ハ毎年其同僚ヨリ七名ノ委員ヲ撰挙シ毎週一會シテ以テ行事ヲ議セシム但シ其管掌セル職務ハ左ノ如シ

(甲) 商業ニ関シ諍論ヲ生シ又方ヨリ訴ヘ来ル者有ル時之カ熟和ヲ講シテ全ク氷解セシムル事但シ然ル時ハ普通裁判章程第二編第百六十七條乃至第百七十六條中ニ記載セル御解裁判官ノ告示ニ拠テ之ヲ取扱フベシ

(乙) 蓋シ公廳ノ下問ニ應スベキ意見ヲ草定シ其査察認可ヲ受クベキ為メ之ヲ年長ニ展示スル事

(丙) 緊要ナル商務ノ公廳ニ進呈スベキ事実ヲ草定シ之レヲ年長ニ示シテ査閲認可ヲ受クル事

(丁) 此條例第十條ニ掲クル商務取扱方ノ試験ヲ年長ノ命ニ従ヒ監視スル事

第三十七條　其他年長ハ同僚中ヨリ諸課特別ノ弁理者ヲ定メ得ベシ但シ此弁理者ハ其命セラレタル事務取扱ヲ年長ニ報道シ其命ヲ遵奉スルヲ要ス

第三十八條　年長ハ其職ニ主シ俸給其他一モ収得無シ唯タ其事務取扱中一時立替置キタル金員ノ償還ヲ得ベキノミ

第三十九條　年長ハ其事務ニ関シ須要ナル属員ヲ撰挙シ而メ其事務、傭入期限共ニ俸給等ニ関スル定約ヲ為シ之ヲシテ遵奉セシムルヲ得

第四十條　年長ノ主宰ハ各自衆社員ニ諸事務ノ執行ヲ命シ得ベシ而シテ其命ヲ受ケタル者ハ一心之レヲ擔当スルヲ要ス

第四十一條　但シ裁判ヲ以テ処分スベキ事務或ハ會社ノ権理及ヒ義務ヲ擴張スベキ事件ヲ命シ社中全権ヲ委ヌル時ハ唯タ此條例第二十八條ニ掲クル如キ年長會議ヲ以テ之ヲ為シ得ベキノミ

第六章　相庭場會同中警察規則ヲ遵奉スベキ事

第四十二條　主宰ハ社員及ヒ年長者會同中安靜、秩序、及ヒ礼儀整頓ヲ司ル

第四十三條　會中安靜ヲ乱リシ者ハ主宰命シテ直チニ其會場ヲ退出セシムベシ又年長ハ主宰ノ命ヲ以テ該人ヲ罰則ニ当テ処分スルコトヲ得（其罰金ハ之ヲ貧院ニ納付ス）但シ此罰ヲ受クベキ者控訴ヲ為シ得ベシ

第四十四條　年長者屢々安靜ヲ害シ或ハ公然不法ノ挙措ヲ為シ其地位不相当ノ所業ヲ為セシ者ハ之ヲ同僚中ヨリ除去スルヿヲ得ベシ但シ其除去セラレタル者ハ前條ノ如ク控訴ヲ為シ得ベシ

第四十五條　年長ハ年々其同僚中ヨリ四名ノ相庭委員ヲ撰挙シ該員ヲシテ相庭場會同ニ方リ不儀不礼無リ且ツ相庭場規則ニ掲載セル條規ニ違背スル者ナキヤウ密ニ注意セシムベシ其他年長ハ此四名相庭委員ノ権利及ヒ義務ヲ定メ及ヒ該場ノ罰則ヲ施行スベキ場合ニ於テハ此委員ヨリ通課ヲ受ケ以テ其決ヲ為スベシ

第四十六條　商用、告諭、心得書等ノ如キ凡ソ商社ニ對スル公告ハ必ス之ヲ相庭場ニ於テスベシ凡ソ公告ハ相庭開場ノ間一定ノ場所ニ掲示シ八日間公示シタル時ハ全ク之ヲ了知シタルモ

ノト視做スベシ

第四十七條　前條ノ方法ヲ以テ公告ヲ掲示スルハ獨リ年長ノ同トル所トス然レモ其直轄公廳或ハ諸長局ヨリ公布スベキ旨指令アリタル時ハ何等ノ事件トイヘモ敢テ公布ヲ拒絶スル能ハス

第四十八條　社員タルト否トニ論無ク凡ソ私人ニシテ相庭場ニ公布センコトヲ希望スル者ハ先ツ此公告ヲ相庭場委員ノ一人ニ交付スヘシ而シテ該委員如シ此ノ公告ニ渉リ危疑無キ時ハ本場ニ掲示スベシトイヘモ其公告或ハ端正ナラス又ハ更ニ法律ニ違セサルヲ疑フ時ハ其端正ナラサル者ハ之ヲ著述者ニ返却シ法律ニ違セサルモノハ直チニ年長者ニ進達スベシ

第七章　社員納付金ノ事及ヒ共有金庫取扱方

第四十九條　商社中ニ加入セラルヽ各人ハ其加入及ヒ社員簿ヘ登記ニ對シ共有金庫ヘ三十「ターレル」其他右登記ノ記書調製手數料トシテ二「ターレル」又ヒ飛脚費壱円ヲ納付スベシ但シ此條例公布ノ日已ニ相庭會社ニ入社セルモノニシテ往キノ兩商人組合中ノ仲間タラザリシ者ハ右ニ定ムル登記手數料ノ内唯タ曾テ兩組合仲間入謝金トシテ納付シタル定額丈ケヲ納ムヘキ事

第五十條　共有金庫ノ積金若シ相庭場ノ費用及ヒ其他普通ノ歳出ニ充ツルニ足ラサル時ハ其需求ニ供用スベキ扶助金ヲ社員ニ課シテ納付セシムベシ

第五十一條　同上ノ目的ヲ達スベキ為メ年長ハ年々公平ニ全社員ヲ五等ニ分チ其各一級ヲ上ル毎ニ下級ノ納付高半額増加ノ比例ヲ以テ之ヲ納メシハ今之ヲ例スルニ則左ノ如シ

第一級一人　六ターレル十八グロシエン

第二級一人　四ターレル十二グロシエン

第三級一人　三ターレル
第四級一人　二ターレル
第五級一人　一ターレル

第五十二條　右年長ノ分等ヲ以テ若シ過当ナリトシ苦情申立ヲ為スモノアル時ハ年長ハ最近ノ撰挙會ニ於テ撰挙ノ為メ集會セル社員ニ右苦情申立者ノ姓名ヲ陳ブベシ然ル時該社員ハ其衆中已ニ三年未年長仲間タラザリシ者ヲ前ノ五個分等ノ各級ヨリ一名宛撰挙シ合シテ之レヲ委員トシ以テ四週間以内ニ苦情ヲ判決シ苦情申立ヲ為セシ各人ヲ編入スベキ等級ヲ確定セシムベシ但シ該人ハ更ニ復タ控訴ヲ為スヿヲ得

第五十三條　但シ其判決有ル迄ハ苦情申立人ハ往キニ年長ヨリ課セラレタル扶助金納付ヲ為スヲ要ス

第五十四條　年長ハ年々常費支出ノ見積書ヲ調製スベシ又非常ノ支出ハ必ス決議ノ上ニ非サレハ共有金庫ヨリ支給スルヲ得ス

第五十五條　年々年長ハ撰挙會合ノ衆社員ニ對シ金円出納ノ始末ヲ縷述シ且ツ出席人ニ其抜萃表（印刷セル）ヲ頒付スベシ

第五十六條　高社ハ右撰挙前會以前先ツ其社員（但シ年長・中ニアラサルモノ）中ヨリ補任セル三名ノ委員ニ課シテ右ノ筭勘ヲ追覈セシメ以テ年長者出納事務ノ確実ナルヤ否ヤヲ徴スベシ

第八章　撰挙及臨時ノ命令ヲ受領スベキ義務

第五十七條　凡ソ此條例ニ本ツキ撰挙或ハ特別ノ命令ヲ以テ補任セラレタル官職及事務ヲ受領セザラント欲スルモノハ須ラクヿヲ免除事由ヲ証明スルヲ要ス

第五十八條　先ツ前條ノ受領ヲ辞シ得ヘキ事由ハ字國法律綱

領第二篇第十八章中第二百八條及第二百九條後見職ヲ免除スベキ事由ニ殊ナルヿ無シ

（則チ其第二百八條ニ曰ク凡ソ左ニ掲クル事由有ル者ハ特例ニ由リ後見職ヲ拒ミ得ベシ）

第一　当時王國（字漏生）兵役ニ在ル諸人

第二　王國ノ政務ニ参與セシ者

第三　市尹及市務管理者タル者

第四　直轄地ノ支配人及其吏員タル者

第五　官府其他公共ノ稍々大ナル金庫取扱ヲ擔任セル者

第六　凡ソ公用ノ為メ國外ニ滞在セル者或ハ同事由ヲ以テ派出スヘキ者或ハ猶ホ一年以上同上ノ派出所ヨリ帰来セサル者

第七　総テ六十歳以上ニ及ヒタル者

第二百九條　其ニ永ク疾病ニ罹リ身体衰弱ヲ極メ其命セラルベキ後見職ヲ当ニ執行シ能ハサル者モ亦同上免除ノ例ヲ受ル可シ

第五十九條　市中代議員及區長モ亦其本意ニ非サレハ強テ同上事務ヲ擔当スルヲ要セス

第六十條　年長職ヲ一回退去セシ者ハ尓来満三年ノ後ニ至ラサレハ再ヒ年長トシ撰挙ヲ受クベキ義務無シ

第六十一條　價定委員（第五十二條）ハ次年更ニ復タ撰挙セザルベシトイヘモ其一回之ヲ勤メ終ヘシ者ハ尓後三年以内ニ一度ヨリ多クハ其撰ニ当ラサルヿヲ得ベシ

第六十二條　年長或ハ主宰ヨリ冬衆員ニ特別ノ命令ヲ為セハ一年中一回ヨリ多キコトヲ得ベカラス

第六十三條　此條例ニ本ツキ撰挙ニ当リタルカ或ハ臨時ノ命

令ヲ受ケタル者一定ノ免除事由有ルニ非スシテ之ヲ拒ム時ハ一週間ヲ熟思時間ヲ与フ其末尚ホ固ク之ヲ拒絶スル時ハ年長ノ処罰ヲ受クルヿ有ルベシ

但シ初回ニ係ル拒絶ニ於テハ年長其罰トシテ該人ニ扶助金ノ増額ヲ課シ第二回ニ於テハ同上ノ外尚ホ第二十條ニ記載セル公権ヲ行フヿヲ禁ス又第三回ニ至テハ該人ヲ全ク會社ヨリ除却スルヿヲ得ベシ

第六十四條　凡ソ公ノヲ忘却シテ本分ノ義務ヲ注意セス及ヒ故ラニ之ヲ放擲シ更ニ年長若クハ主宰ノ督責ヲ遵奉ヤサル者ハ前ニ齊シク年長之ヲ処罰ヲ為シ得ベキ権アリ但シ其處罰ニ関シテハ前條中初犯再犯ノ處分法トシ記載セルモノニ準拠スベシトイヘモ年長ハ其他尚ホ此怠惰者ニ已ニ其初度ノ罰ニ於テ奪官言渡ヲ為シ得ベシ

第六十五條　然レモ右両條ニ関シ其刑ヲ受クベキ者ハ之ヲ上聽ニ控訴スルヿヲ得其上年長ハ已ニ確定セル處刑ヲ完怨或ハ更ニ赦免スルヿヲ得ベシ

第九章　會員タルノ権ヲ一時若クハ永久剥奪スル事

第六十六條　社員若シ管財者ノ監護自ラ其財産ヲ管理スル能ハサルヿヲ以テ裁判上他人ノ監護ヲニ付セラルルカ或ハ負債償却ノ能力無キカ若クハ刑ヲ受ルナリニ付セラルカ或ハ負債償却ノ能力無キカ若クハ刑事ノ紀弾ヲ受クル時ハ一時社員タルノ権利ヲ失フベシ

第六十七條　前條ニ掲ケシ社員権停止ノ効ハ唯タ本人ノ一身ニ止ルモノニシテ其營業ニ妨有ルヿ無シ故ニ此停止ヲ受ケシ者ハ其身ニ於テ凡ソ社員タルノ権ヲ要スル事業ハ勿論総テ此権利ヲ行フヿヲ得ス社員ノ集會ニ列スルヿヲ得ス発言又ハ投票ニ管与スルヿヲ得ズトイヘモ商業ニ至テハ躬ラ其権利ヲ有セル代理者ヲ以テ本権停止中猶ホ引續キ之ヲ營ムヿヲ得ベシ

第六十八條　社員タルノ權利停止ノ左ノ場合ニ於テハ之ヲ解リベシ

イ　管財者ヲ廢スル事

ロ　償還或ハ免債（負債責務ヲ免シ解リナリ）若リハ延期等ニ緣リ債主ト熟和ヲ遂クル事

ハ　刑事裁判ヲ以テ全リ無罪ノ言渡ヲ受リル事

第六十九條　然リトモ尓後ノ確証ヲ看出ス迄一時放免セラレタル者ハ單ニ其放免ニヲ以テ社員權ノ停止ヲ解カル得ルヿ無シ然ル時ハ唯年長者社名ヲ辱カシムルヿ無リ之レガ社員權停止ヲ解キ得ベキカ或ハ之ヲ連續セシメサルカ或ハ不審ノ廉極メテ甚シキカ或ハ実ニ賊悪スベキモノナルヲ以テ該人ヲ全リ除却セサル能ハサルカヲ決定スベシ是故ニ年長ハ裁判所ニ於テ宣告アリシ判決ヲ報知セラレタキ旨ヲ豫メ請ホシ置クヿヲ得

第七十條　社員權又商人權ハ左ノ場合ニ於テ消亡スモノトス

イ　死亡

ロ　自身ヨリ退去スル者但シ然ル時ハ年長ニ對シ信実ニ其迹キヲ告知スシ

ハ　年長者ノ決議

第七十一條　社員若シ左ノ所業ヲ為セシ時ハ年長ハ決議ノ上其會社ヨリ除却ノ言渡ヲ為ス義務有リ

イ　自侭或ハ全リ詐偽ノ破産ヲ以テ確定ノ裁判言渡ヲ受ケシ時

ロ　偽誓、公文、私証或ハ署名ノ偽造或ハ情ヲ知テ賃債ヲ播傳シ其他重大ノ詐偽ヲ犯セシ時

(ハ) 其他ノ重罪凡リ懲役、城寨禁獄或ハ施体刑ノ確定裁判ヲ言渡サレシ時

(ニ) 退社、去國、確定ノ裁判或ハ市區代議員ノ決定ニ「ツ」ニ論無リ凡ソ府民権ヲ失セシ時

(ホ) 確定ノ裁判ヲ以テ富人財利奪ノ言渡ヲ受ケシ時

(ヘ) 暴悪心ヲ以テ國税ヲ逋レ密賣ノ罪ヲ以テ二回成規ノ裁判ヲ受ケシ時

(ト) 利足制限法ニ違レル或罪ヲ犯シ其刑ヲ受ケシ時

第六十二條 之ニ反シテ左ノ場合ニ於テハ情状ニ從ヒ或ハ除却或ハ一時除名若クハ全ク社中ニ存シ置クベキヤヲ決定スルハ総テ年長ノ見ニ委ス

(イ) 第六十九條ニ記載セル場合

(ロ) 刑事裁判ニ方リ前條(イ)及(ロ)号下ニ記載セル事件ニ係ラ

ス唯ダ罰金若クハ通常禁錮ノ處刑言渡ヲ受ケシ時

(ハ) 本章第七十一條ニ本ツキ確定ノ裁判言渡シアリシ後特典ヲ以テ赦免セラレタルカ或ハ罰金若クハ通常禁獄ノ刑ニ軽減セラレタル時

凡ソ年長タル者ハ必ス先ツ會社ノ栄誉聲名ヲ世間ニ公ニ外國ノ商場ニ存スルヿヲ勉ムベシ

(ニ) 又年長ハ會社及商業仲間ノ栄誉利益ヲ保護センカタメ逋税ノ罪ヲ犯シ同業仲間一般ノ体面ヲ汚ス者或ハ逋税ノ罪ヲ犯セル間ハ有者ハ一度ノ確定裁判トイヘドモ之ヲ除却スルヿヲ得ベシ

第七十三條 世上ニ若シ會社中ノ一員罪科犯為ノ風説其風聞セル犯為ノ性質若シ露見スルニ於テハ蓋シ會社ヲ除却セラルベキモノニ係ル時ハ年長ハ該社員ヲ呼寄セ諄々ト風説ヲ

傳話ニ警誡ヲ加ヘ且ツ之ニ親ラ其署名ヲ防遮スルヿ任スル
ノ権有リ然レトモ若シ該社員之ヲ防遮シ能ハズ其汚衊陸續発
出シ再度ノ説諭モ其効無キ時ハ風聞セル事由ノ大小ニ社
員ヲ除却スルハ年長ノ意見ニ在リ但シ該人ハ其控訴ヲ為シ得
ベシ

第十章　門弟及助手

第七十四條　門弟或ハ助手ヲ執ルニ付キ書面ヲ以テ結ブベキ
定約ハ其事実ニ未全　私事ニ属ストイヘトモ社員ハ必ス之ヲ年
次ニ展示スルヲ要ス且ツ年長ハ右門弟或ハ助手ノ傳習功或ハ
奉仕期限ヲ終ヘシ後受リル所ロノ証状ニ該人ニ對シ一ニ毫倫
無キニ於テハ保証ヲ加フベシ蓋シ年長ハ此ノ要務ヲ行フニ際
シ凡ソ商人ヲシテ六得業ノ本源ハ全ク正直廉隅及傳識ニアリ
ト信認セシムルヲ主トスヘシ然リ而メ此目的ハ如何ナル方法

及如何ナル取扱ニテ達シ得ベキヤハ一ニ年長ノ熟思ニ委托ス
ト雖官ノ要求有ラハ必ス之ヲ明細ニ縷述スベキ義務アリ
第七十五條　若シ會社仲間ナレ其社中ヲ除却セラルベキ罪
ヲ門弟若シクハ助手タル者犯為シ年長ヨリ之レヲ放遂スヘキ
ヤノ旨令シタル時ハ社中ノ各員ハ直チニ該人ヲ放遂スベキ義
ノトス位シ之ヲ控訴ヲ許ス

第十一章　控訴

第七十六條　處罰ヲ受リベキ社員ハ控訴ヲ許サレタル場合ニ於
テ其権利ニ拠リ控訴ヲ為サンヿヲスル者ハ其判決後必ス十日
以内ニ工廳ニ對シ之ノ申立ヲ為スベシ而メ控訴若シ正規ニ適
フトキハ工廳ノ裁決ヲ待テ後其罰ヲ決行スベシトイヘ
ト成
ニ反スルトキハ直ニ其罰ヲ決行スルヲ得ベシ
第七十七條　本府ノ市尹ハ會社直接ノ管轄廳ニシテ府廳及ヒ

高務若ノ管下ニ位スルモノナリ

ハ今本條例ニ成法ノカヲ付與シ永ク施行スベキヲ為メ親ラ

署名シ供テ朕ガ大璽ヲ鈐シ以テ成法トス